

マンモスじゃなくてナウマンゾウ

科学博物館に入って最初に目につくのは、入口付近の大きなゾウでしょう（写真1）。先日、このゾウの前でお客さんが「♪マンモス、マンモスウ～」と楽しそうに歌っていました。しかし...違うのです！多くの方が勘違いされていますが、マンモスではなく、「ナウマンゾウ」です。ここで、ナウマンゾウ（写真1）とマンモス（写真2）の違いについて紹介しましょう。

マンモスとナウマンゾウは、どちらもゾウの仲間ですが、ナウマンゾウはアジアゾウの仲間（アジアゾウ属）、マンモスはマンモスの仲間（マンモス属）です。これは、ネコとヒョウくらい違うということです。また、生きていた時代や場所も違います。ナウマンゾウは30～2万年前の日本や朝鮮半島、中国などの南方にすんでいたのに対し、マンモスは400～1万年前のユーラシア大陸北部からアラスカ・カナダ東部にかけての北方にすんでいました。

見た目にも、いくつか違いがあります。ポイントはいくつかありますが、その一つが「毛」です。一般に、あたたかい地域に住んでいたナウマンゾウは体を覆う毛が短かったと考えられていますが、シベリアなど寒い地域に住んでいたマンモスは、寒さに耐えるため全身が長い毛で覆われていたと考えられています。しかし、実は当館のナウマンゾウの毛は、現在生きているアジアゾウより少し長めになっています。これは、最終氷期という今の時代よりもっと地球全体が寒かった時代を生き抜いたことから、毛が少しは長かったのではないかと考えられたためです。

どうですか？マンモスとナウマンゾウが別の生き物にみえてきたでしょう。富山ではナウマンゾウの歯や骨が、富山市長川原（旧大沢野町）と南砺市祖山（旧平村）から発見されており、かつて富山県にナウマンゾウが生きていたことがわかっています。これを機に、ぜひ「ナウマンゾウ」を覚えてあげてくださいね。

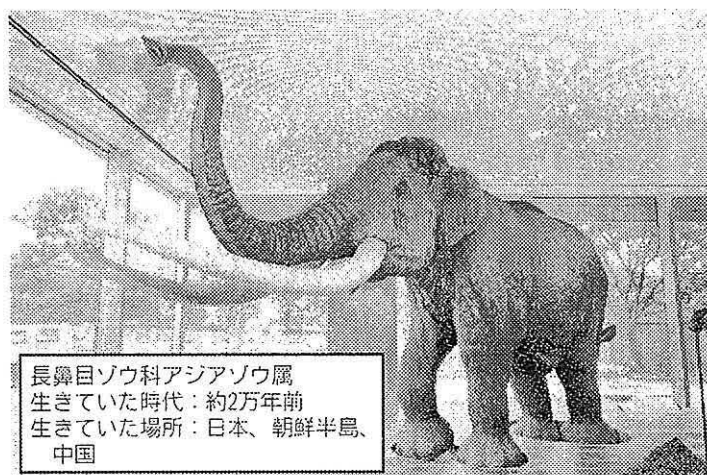


写真1 富山市科学博物館のナウマンゾウの模型



写真2 北海道立北方民族博物館のケナガマンモスの模型